

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年10月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0773200480		
法人名	医療法人社団 敬愛会		
事業所名	グループホーム敬愛シニアガーデン富岡		
所在地	979-1152 福島県双葉郡富岡町本町2丁目22番地 (電話) 0240-21-2250		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなのビル302号室		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年10月20日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	14人, 非常勤 3人, 常勤換算 11.3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての 1 ~ 2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	9,000円
敷金	有( )円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800円

### (4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	7名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.27歳	最低	70歳	最高	91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村病院、今村歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は富岡町の中心地の住宅地に在り近くに児童館などがある。開設以来6年が経過し、これまで様々な地域活動を通して地域との交流に努め、地域に溶け込んだ事業所となっている。事業所は以前医院であった建物を改装しており、使いにくい面もあるが、職員全員が「ハード面のマイナスを自分達のサービスの質というソフト面でカバーするよう心がけている」と話してくれたのが、印象的であった。また、管理者は「3年たったなら介護福祉士、5年たったならケアマネジャー」を合言葉に職員の資格取得の支援をし毎年合格者を輩出している。事業所内では研修委員会、給食委員会、環境整備委員会等11の委員会を設け、毎月1回全体会議を開催している。管理者を中心に職員のチームワークの良さがうかがえ、利用者も落ち着いており表情がとても明るく、なごやかな雰囲気である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を全職員で検討し、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で日頃のケアを振り返りながら自己評価に取り組み、全体的には管理者とユニット責任者が総括して作成した。さらに自己評価を全職員に周知している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	概ね2ヶ月に1回定期的に開催しており、町役場職員、地域住民代表(老人会、民生委員、消防団)、家族代表等で構成され、内容も事業所の行事報告や利用者の状況、地域の行事等への参加をはじめ、災害訓練、重度化や終末期のあり方等多岐にわたっている。回を重ねるごとに充実した内容になってきており、運営推進会議の意義を十分活かした取り組みを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置し、意見や要望等の把握に努めている。また、家族の面会時に管理者や担当職員が利用者の状況等を報告をしながら、気軽に意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。出された意見や苦情については苦情処理委員会で検討し、運営に反映させる体制となっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	高校生や地域のボランティアの受け入れや、地域の行事への参加を積極的に実施しており、事業所の夏祭りには地域の方々の参加が130名もあり、なごやかな交流の場として定着している。運営推進委員の協力を得て、地域との連携が円滑に行なわれている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は地域密着型サービスを踏まえたものとなっている。また、毎年各ユニットごとに職員全員から提出（様式がある）してもらい独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念とともに各ユニットの理念を日頃からミーティング等で話し合い、理念に基づいたサービスの実践に日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、ボランティアの受入や地域の行事（毎年行われる町の「福祉祭り」等）への参加を積極的に行なっている。運営推進委員を通して地域の理解と協力が得られ、地域に根ざした事業所として認識されてきている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や重要性については、全職員が理解しており、前回の評価結果を踏まえ、日ごろのサービスを振り返りながら自己評価に取り組み、サービスの見直しと向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、毎回充実した内容となってきたことが記録からうかがえる。地域住民の代表者には特に運営推進会議の意義や役割が認識されている。現在委員より提案のあったホームページの開設を準備中である。		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	担当者が毎月利用者一人ひとりの近況を書き、行事の際の利用者の写真と本人が書いたメッセージとともに送付している。また、医療機関の受診状況、金銭出納帳のコピー、領収書も同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、来訪時に家族からの意見聴取をしている。家族間の問題には双方へある程度距離を保ちながら、利用者の心の安定が図れるようアドバイスをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動はしていない。現在は職員の産休や育児休暇等のみで、ここ数年退職者もない。以前は1階と2階の職員の異動も行っていたが現在はしていない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員のスキルアップに熱心であり、各種研修会には積極的に受講させている。また、資格取得についても支援しており内部研修を実施し、毎年合格者を輩出している。利用者の気持ちを体験することを目的に職員全員が交代で1日車椅子等で要介護者体験の実習等もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会の意見交換等で積極的に交流をしている。また、浜北地区研修で互いの事業所で交代で職員体験等も実施している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から野菜作りや漬物の漬け方等経験を活かした知識を教えてもらっている。認知度が進み表現が難しくなってきたりも、日常会話の中で経験したことや知識を話すときがあるので、聞き逃さないように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話を重視して段階的に意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者については、行動観察や家族から情報を得て、生活援助に活かしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者、ケアマネジャー、担当職員等で検討会議を実施し、家族の意向を踏まえ利用者本位の介護計画を作成している。全職員がパソコンを習得し記録はすべてパソコンで作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員が中心となり情報収集に努め、定期的に介護計画を見直している。また、利用者の状態の変化に応じて、随時利用者や家族、関係者が話し合い、介護計画の見直しをして新たな介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医および協力医療機関の受診を支援している。受診には家族が対応している方もあり、受診後は情報共有の徹底をしている。また、協力病院は24時間対応可能で、往診も月2回行ってくれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化への対応や終末期の看取りについては全職員が把握しており、重度化・見取りに関する指針や同意書は作成されている。現在まで事業所での看取りは1名であるが、終末期の利用者の対応については5人ほど経験している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員が利用者のプライバシーを損ねないよう声かけなどに配慮している。個人情報の保護についても全職員に徹底し秘密保持に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態や思いに配慮しながら、利用者中心の生活支援をしている。意思表示が困難になってきている利用者も多いが、表情やちょっとしたしぐさを見逃さないよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事を楽しんでいる。選択メニューや行事食等も希望にそって対応している。配膳や食器洗い等できる人が職員と一緒に自然に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の要望（時間の希望や好みの湯温等）にそった入浴支援をしている。菖蒲湯やゆず湯で季節を感じてもらっている。現在は入浴拒否者はいない。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者の趣味や得意なことを続けられるように支援しているが、介護度が進んできており、事業所内の畑での野菜作りも一部の利用者のみになってきている。	○	介護度が進んでいる利用者が多くなってきているが、利用者ができることしたいことを把握し、気分転換等が出来るような支援が望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	利用者の希望により散歩やドライブに出かけている。レクリエーション委員が利用者の希望を聞き、寿司ツアー、お花見、紅葉狩り、白鳥見学、海辺の散策等を企画し全員で出かけている。買物ツアーは月2回実施している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を認識しており、きめ細かな見守りとさりげない声かけで対応しており、日中は出入りのドアに錠を付け施錠していない。エレベーターも自由に使用できるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て避難経路の確認、消火器の使い方等避難訓練を実施している。また、月1回電気器具等の安全点検を実施している。災害時の食料品等も備蓄している。		月1回の安全点検の際に、あらゆる場面を想定して災害時のシミュレーションをされてはどうか。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量は介護記録表に記入し、定期的に体重測定等も行い健康管理に役立てている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	もともとあった建物を改築したので、ユニットごとに共用空間等は違っているがそれぞれソファやテーブルが機能的に配置されている。廊下や空きスペースには椅子が置かれ、利用者が一人や少人数で思い思いの場所で過せるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がなじみのもの（家族の写真や自宅で使用していた家具等）を持ち込み、それぞれ個性的な居室となっている。		

※  は、重点項目。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム  
敬愛シニアガーデン富岡  
記入担当者名 鈴木 洋子

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。